

江南中学校 吹奏楽部へ行ってきました！



「鬼の居ぬ間に洗濯」??

意味↑

(怖い人や気兼ねする人のいない間に、
思う存分くつろぐこと。)

本日は、江南中学校 吹奏楽部の取材です。
顧問の徳増先生は出張が長引き、
本日の部活動には間に合いそうもありません。

でも、すでに練習はパートごとに教室を分けて始まっており、
あちらこちらから音が聞こえてきました。
先生がいないとは思えないまじめな雰囲気です。(本当)

<バスクラリネットの魅力を教えてください。>



「音の丸さかな。」

そう答えてくれたのは、古賀さんです。

吹いてもらうと、その音は、
低くまろやかに響きました。

小回りの利くような軽快な音では決してないのですが、
奥行きのあるいい音です。

「今吹いた音は、楽器の音はしているのですが、
この子(楽器)のもつ本当の音色では、まだないんです。
プロの演奏する CD を聴いたりすると、
本当はもっときれいな音色が出せるということが
とてもよくわかります。」

十分きれいな音が出ていると内心想いながら、
さらに聞いてみました。

本間 「この音を色に例えると？」

古賀 「う～ん。水を多く含んだような薄い赤。
それってピンクかなあ。」

本間 「季節に例えると？」

古賀 「夏と冬はない。どちらかという春。」

本間 「花に例えると？大輪の花か、
小さな花か、派手な色の花か・・・？」

古賀 「たんぽぽかな。

オーケストラの中では目立つ楽器ではないのだけど、
良さはいっぱい持っているんです！！」



変な質問にもちゃんとついてきてくれました。(笑)

<小編成オーケストラ>



メトロノームを中心に半円形になり、
全員で曲を奏でていました。

ひとしきり吹き終わると、
パートリーダーから順番に
「3小節目はもう少しフォルテで」とか、
「強弱をもっとつけて」とか、
「テンポが遅いところがあった」とか、
より良くなるための指摘をし合います。

トロンボーン



ホルン



チューバ



<サクソとは・・・>



生徒 「吹き方はリコーダーに似ているのだけど、
まあ、リコーダーをごつくして
ボタンを多くしたという感じかな。」

本間 「サクソのどういうところが好き？」

生徒 「見た目かっこいいし、音色もいい。
それから吹く姿がサマになるし、
JAZZ でも活躍するし、メジャーだし。
楽器でこれだけそろうのは
サクソしかないでしょ！」

少し圧倒されながら(笑)サクソの魅力を
存分に語ってもらいました。



クラリネット



フルート



<パーカッション>

パーカッションという楽器があるのではなく、
打楽器のことを総じて、そのように呼ぶのだそうです。
ティンパニー



スネアドラム(小太鼓)



ちょうど織田さんが後輩に教えているところでした。
せっかくなので、私(本間)も憧れの「ロール」を教えてもらうことに。

「ドロロロロロロロロロ……………」

いともたやすく演奏する

その「ロール」の速さを目の当たりにし、
もしかして、織田さんってすごい人かも…
と尊敬のまなざしを向けてしまいました。

そして、
これがバスドラム(大太鼓)です。



なんといっても、音の大きさは迫力があります。

「パーカッションの中で
バスドラムが一番好き ♡」
という織田さんに聞きました。
本間 「そんなに好きなの？」
織田 「はい。もう、これしかないって感じです ♡」
本間 「どういうところが？」
織田 「曲の場面場면을華やかにしていくのが
バスドラムだし、

テンポとか、雰囲気をつめる役割もあるから、
指揮の次に重要だと思っています。
本当に魅力にあふれているんです ♡」

そこまで入れ込んでいる織田さんなら出来るだろうと、
またしても無理なお願いをしてみました。(笑)

本間 「静かな波の感じをやってみてくれる？」
本間 「嵐の感じだとどう？」
本間 「じゃあ、白雪姫が毒リンゴを食べて倒れたところは？」

とめどもなく続く変なお願いに最後まで答えてくれました。
「言葉のイメージ」を
「音のイメージ」に変換して再生されたその音は、
私(本間)の期待をはるかに超えた出来栄で、
情景が目の前に迫ってくるような気持ちになりました。

26名いる部員の中に男子生徒も数人いました。

「音楽が好きなので勉強よりは続けられるって感じです。」
あくまでも自然体な話っぷりに、
好感を覚えずにはられない本間でした。(笑)

<部長の水野さん>



笑顔の優しい水野部長に聞きました。

本間 「吹奏楽部で26人って少ないほうだと思うけど、どう？」

水野 「大人数のダイナミックさはないけれど、一人ひとりの持っている楽器の個性を生かせるので楽しいですよ。」

本間 「楽器の個性ってどういう意味？」

水野 「音色や音楽センスのことです。テンポが少しずれても、気持ちや心をこめることを大切にしたいほうがいいと思うんです。」

そんな話をしているうちにミーティングの時間になり、連絡事項に入ります。

出張から戻られた顧問の徳増先生に聞きました。



「吹奏楽の魅力は、大勢のエネルギーの大きさを肌で感じるのだと思います。大勢が自分の都合をつけて練習をしてきて、実際に演奏するその瞬間は、皆が同じ方向を向き、同じ曲に向かっている。精神的な充実感は中学1年生の彼らも感じているようです。」

本日は見ることは出来ませんでしたが、全体練習(ハーモニー)には今日見せてもらったみんなの思いがいっぱい詰まっていそうです。

(取材 本間)